

# 楽しく分かりやすい授業を目指して

## 韓国・ソウル市内 光栄女子高校

光栄女子高校日本語教師 趙 美淑  
Cho Mi Sook

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介していただきます。

### 1 はじめに

1973年に高校で第二外国語として日本語の教育が始まって今年で25年目になる。その間、何回も教育課程(カリキュラム)が変わったが、今年は第6次教育課程の3年目である。第6次教育課程では、過去の文法中心の指導から会話の流暢さを伸ばすことに目標が変わった。しかし、現在の教育環境では、意思疎通(コミュニケーション)ができるように会話能力を高めるには難しいところがある。問題は学習者が多すぎる(1クラス54~56人)こと、狭い教室、乏しい視聴覚教育環境、入試中心の教育などである。

難しい環境にもかかわらず、教師たちは新しい教科書を使って学習者に合わせた指導をするために、さまざまな問題点の解決を図っている。コースデザイン、教授法、補助教材、学習者の席の配置、教師同士の情報交換や勉強会などを通じて努力している。

### 2 学校紹介

光栄女子高校は1985年に開校したソウル市内の私立高校で、進学校(人文系)である。学級数は全校36クラス(各学年12クラス)、生徒数は1,925名(1年645名、2年639名、3年641名)である。

韓国の普通の高校(人文系)では、第二外国語(フランス語、ドイツ語、中国語、日本語、スペイン語、アラビア語、ロシア語)の中から二カ国語を選択して教えるのが一般的である。しかし、本校では日本語だけを選択している。

日本語の授業は、1年生(週1時間)、2年生(週2時間)、3年生(週2時間)の授業を3人の教師が分担している。本校は進学校なので生徒は大学入試を目指して勉強している。現在、日本語は大学入試科目に入っていないので、入試科目と比べると関心が低い。

### 3 カリキュラムと教師研修

本校では3年間で2冊(『日本語上・下』)の教科書の内容を指導する。教育課程が変わると教科書も新しく変わる。教育課程が決められる前には公聴会が2、3回あり、その公聴会の結果を参考にして教育課程の内容が決める。教育部<sup>1</sup>は教育課程に合う教科書を審議して決める。学校は決められた教科書(現在12種類)の中から1種類を選択する。たくさんの日本語教師が公聴会に出席して意見を発表する。

新教育課程の指導内容と教授法は、ソウル日本語教師研究会主催の研修(年2回)に参加して勉強する教師が多い。'96年の冬休みには、教授法とモデル授業の研修が行われた。また、'97年の夏休みには、学校での授業の時感じたことを発表したり、もっといい授業のための情報交換をしたり、さまざまな教え方の研修があった。

昨年(1999年)の9月から12月の間には、希望した教師たちによるモデル授業発表大会もあった。授業発表大会で受賞した教師は、次の研修会の時に発表することになる。研修会には日本文化院<sup>2</sup>の支援があったり、文化院の教育専門家から協力を得ている。

その他にも日本文化院には、高校日本語教師のための一般講座(週1回)、集中講座(夏休み1週間、冬休み1週間)があり、韓国の日本語教師たちが参加して勉強している。また、夏休みには、国際交流基金主催の日本語教育巡回セミナー(2日間)が行われたりする。

これらの研修と講座に参加した教師は自分の学校に戻って楽しい授業をしている。本校の教師(3人)も研修で勉強した教授法を学習者に合わせて活用している。

情報交換としては近くの学校の日本語教師の集まり(毎月1回)があり、新しい教科書と教材、実際の授業での経験を話し合ったり、いい教え方や新しい情報やア

1 日本の文部省に当たる。The ministry of education

2 正式名は、在韓国日本大使館公報文化院。

アイデアを集めて、教材と補助教材を作っている。

#### 4 授業スタイル(教授法)

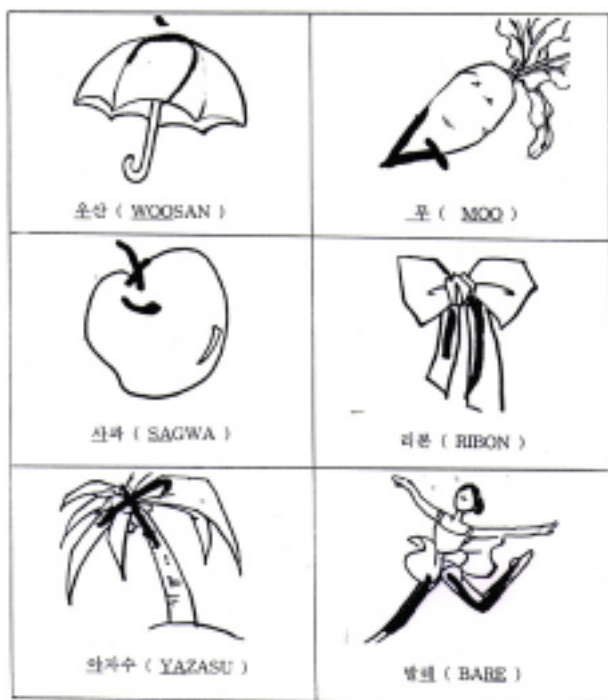
本校の1年生はみんな日本語を初めて習う。2、3年生は入試科目と比べてあまりやる気がない学習者が多い。この点を考えて教師はダイナミックに授業を進めなければならないし、学習者のレベルと進度にも合わせなければならない。日本語を楽しく分かりやすく教えなければ授業はうまくいかないし、学習者は興味を持たなくなってしまうので、何よりも教師の工夫が大切である。

本校では3人の教師が3つの学年に分かれて指導する。できるだけ一人の教師が一つの学年を担当するように教師を配置する。そして、1クラスを4人ずつ13~14のグループに分けて、授業を行う。また、新学期になると、今まで使われてきた教材、補助教材などは担当する教師同士で交換する。

1年生は全く日本語が分からない学習者である。日本語の勉強が初めてなので、何よりも楽しく学び、日本語に興味を持ち、やる気ができるようにコースデザインと教授法の工夫が必要となる。例えば、ひらがなの導入は絵カードを豊富に使う。このカードは、文字を覚えやすいように韓国語と日本語の発音が同じものを使う(資料1)。ひらがなを覚えるためにはゲームもする(「5. 使用教材」の章を参照)。ひらがなは大体1カ月(週1時間)ほどで読むことと書くことができるようになる。

文字指導が終わると教科書を使う。授業では、書くこともしている。

資料1 連想法を使用したひらがなとカタカナの絵カード



とと読むことよりは語彙と文章に耳が慣れるように、カセットテープを何度も聞かせたり、教えられた文が自然に発話できるように、絵パネルと補助教材を使って練習をさせたりする。語彙と文はビンゴゲーム、グループ別覚え大会、ペーパーテストなど、さまざまな方法で覚えさせる。日本語は韓国語と似ているところがたくさんあって、1年生もやさしいと思っているらしい。授業の内容が理解できない場合には、グループの生徒同士で相談する。どうしても分からない時は、教師がグループ別に指導する。

語彙、文法、本文の内容をはっきり理解した後、グループでそれぞれが役割を決めて本文の会話練習をする。その課が終わると、ノートに本文を書いて韓国語に翻訳することが宿題である。宿題のノートには、授業中に理解できなかったことや感想、また授業内容とは関係なくても日本文化とか日本について知りたいことがあったら書く。各学期が終わると「グループ別演技大会」(1グループ3~5分)を行う。テーマは自由でセリフを作り、覚えて演技する。内容は、今まで勉強したことと場面が中心になる(資料2 セリフ参照)。

資料2 1年生：演劇大会のセリフ(学習した時間：20時間ぐらい)

안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요! 안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요! 안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요! 안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요! 안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요! 안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요!	안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요! 안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요! 안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요! 안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요! 안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요! 안녕하세요. 반갑습니다. 안녕하세요!
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2年生も授業の進み方は1年生と同じである。2年生の学習者はレベルの差が大きいので、グループ分けは指導内容によって違う。新しい内容は1グループに一人の生徒(よくできる人)を配置し、復習はレベル別(よくできるグループ、普通のグループ、まあまあのグループ、よくできないグループ)に分ける。教師はよくできないグループには、レベルに合わせてもっとやさしく説明をする。他のグループには、違ったレベルの課題(ロールプレイ)を出して練習させる。

2年生も聞くことと話すこと(ロールプレイ)を中心に指導している。授業が週2時間なので、さまざまな補

助教材を使おうと努力している（「5. 使用教材」の章を参照）。動詞変化と数字は、歌を歌いながら覚えさせる方法が効果的であった（資料3）。聞くことは、教科書のカセットテープと『しんにほんごのきそⅠ』（スリーエーネットワーク）のビデオテープを使う（「5. 使用教材」の章を参照）。読むことは、漢字にルビをつければ3～4人くらいを除いて読むことができる。

資料3 歌で習いましょう（数字）

十人のインディアン

しんにほんごのきそⅠ

2年生も1年生と同じで、新しい文法と授業の内容をはっきりと理解していない時は、グループ内の生徒同士で相談する。どうしても理解できない場合は、教師がグループのレベルに合わせて説明する。時間が足りない時は、宿題ノートに書かせて個人的に説明する。グループの発表は毎学期1～2回ある。テーマと形式は自由で、内容は1年生から現在までに習った言葉で書く。もちろんセリフは覚えて発表する。優勝したグループには賞品をあげたり、日本文化院で上映している映画を見せたりする。

もう一つの方法としては、全グループに同じテーマ（電話、自己紹介、案内、趣味、買い物）で20分くらいグループ内での練習をさせ、その後20分で実際の場面のロールプレイ（グループ別大会）もさせる（右の写真）。このような授業は復習に効果があった。

3年生は、大学入試の科目に入っていない日本語の勉強はあまりやる気がない。教育課程では『日本語下』（「日本語能力試験3級」のレベル）まで教えることになっている。しかし、内容はだんだん難しくなり、生徒はやる気がなくなってしまうので、進度通りに進めるには無理がある。それで本校では『ヤンさんと日本の人々』（本とビデオ、国際交流基金日本語国際センター企画・制作、ビデオ・ペディック発行）を教材として、1、2年生の時に習ったことを復習している。

写真 2年生の授業：実際の場面でロールプレイする（買い物の場面）



日本事情と文化については、『ようこそ日本へ』（ビデオテープ、スリーエーネットワーク）、『写真パネルバンクⅣ・行事シリーズ』（国際交流基金日本語国際センター企画・制作、日本出版貿易発行）を学期末の2月に紹介する（1、2、3年生）。

5 使用教材

本校は教育部が審議して決めた教科書の一つ『日本語』（이인영, 이종만 著、金星教科書）をテキストとして使っている。3年間で2冊の教科書を教えるには、その内容が多すぎる。生徒の数も多いし、レベルの差も大きいので、教材はいろいろあればあるほどいい。

ひらがなとカタカナの指導は、絵カードを作って使う。絵カードは見るとすぐ覚えられ、文字と絵を連想してなかなか忘れないという効果もある。今年の新学期からは、

文字と語彙力を高めるために『BITS and PIECES 日本語教材・アクティビティ集』(講談社)を初めて使っている。さまざまな教材を使うことによってグループの創造力が出てくるし、授業も楽しくなると思う。ドリルは『ドリルとしてのゲーム教材50』(アルク)、『クラス活動集101』(スリーエーネットワーク)を使っている。聞き取りは『わくわく文法リスニング99』(凡人社)の中から教科書の内容と同じものを選んで聞かせる。ビデオは1、2年生は『しんにほんごのきそ』、3年生は『ヤンさんと日本人のた』を見ながら、聞くことと場面の理解、および自然な会話を身につける。

また、『歌で習いましょう』('96ソウル中等日本語教育研究会資料)は学習者の興味を高めると思う。歌で習う授業はとても楽しくなり、簡単な文法は覚えやすい。

いい教材は学習者にも効果的であり、授業もダイナミックになり、実際の場面で話せるようになる。現在使っている教材は、ソウル日本語教育研究会が韓国の日本文化院から寄贈していただいたものである。今までの教材による授業は学習者のレベルによって違うが、初めは難しいと思った学習者も何回もくりかえして練習したらよくなるようになった。

## 6 教育効果

クラスの生徒数も多すぎるし、個人差も大きいので、生徒が満足できない授業になりがちなのが大きな問題である。それで、本校では、生徒たちをグループに分けてその解決を図っている。初めは大騒ぎというか、うるさくて勉強できないくらいである。

しかし、時間が経てば経つほど学習者は積極的になり、創意的になってくるのが感じられる。レベル別に席を替えることによって、ある程度学習者の出来具合に合わせて進むことができる。その結果、興味を持たない生徒もやる気のない生徒も少なくなった。また、グループの生徒同士はお互いに助け合いながら親しくなり、全てのグループが授業に参加するようになった。授業内容もすぐ理解できるし、授業以外の時間でも、会話の相手と練習することができる。授業中にも、実際の場面を設定して会話指導(ロールプレイ)をしやすい。学習者の会話能力も高くなっていく。

しかし、全く問題がないわけではない。足りない語彙と文法知識では、できない表現が多いし、表現してもよく間違ふ。教師は学習者が中途半端に会話しないように、学習者の能力を詳しく把握しなければならない。ますます学習者が自信を持って勉強するように、レベルに合う

指導が大事である。また教師も会話能力を高めるために努力しなければならない。

## 7 今後の課題と展望

21世紀の若者たちはいろいろな言語を習い、その言語を通じてその国の文化を理解し、世界の人たちとつながりを保つたろうと思う。国籍の意味よりも、相手の文化を理解して、お互いに協力し、共存する人間をどのようにして育成するかが、21世紀の世界の教育目標だと思う。このような観点から見ると、韓国での日本語教育も、会話能力と日本文化の理解を高めるようになっていくと予想する。

現在、その数は少ないが、生徒の中には日本の歌と漫画に接している子供もいる。韓国の新政府も日本文化の解放に肯定的である。日本文化の理解のために、日本語の教師として韓国の青少年をどのように手助けしたらよいかというのも課題である。

韓国の高校では第6次教育課程が2001年に終わり、2002年から第7次新教育課程が始まる。その計画案を見ると、語彙の数は少ないが、実際の場面でよく使えるように流暢さを伸ばすことが目標である。

本校では、時代に合わせて新しい機材を設置して、昨年から2年生の教室ではコンピュータ、ビデオ、インターネット、教材提示装置、OHPなどの機材が使えるようになった。機材の活用によって教育効果が高まったと思う。

過去より教育環境がよくなるにつれ、教師も新しい機材の使い方を身につけなければいけない。新しいプログラムを開発する能力も要求されている。新しい変化に適應するために、日本語の教師は研究と努力を続けなければならない。会話中心の教育なので何よりも教師の会話能力を高めるための努力と研修が必要である。そして、日本文化にも関心を持ち、日本文化開放の時代を迎えて生徒たちの指導をいかにするべきかを工夫しなければならない。

時代と生徒は変わってもいつも楽しく授業をする幸せな教師になりたい。

### 光栄女子高校スタッフ

学 園	長 孫 光 鉢	日本語教師	金 容 載
が く えん	ちやう Son Kwang Su	にほんごきょうし	Kim Young Jai
校 長	長 黄 昌 燮		申 熙 宅
こ う	ちやう Ilwang Chang Sub		Shin Hec Tack
教 頭	姜 秉 岐		趙 美 淑
きやう	どう Kang Byoung Kec		Cho Mi Sook